

令和3年度 広島市の学校における働き方改革推進フォーラム
「働き方改革推進モデル校」実践発表



広島市立庚午中学校
学級数 25学級
生徒数 786名
(令和3年5月1日現在)

1 本校の目指す学校像など

学校教育目標

ひとりひとりを生かす教育を深化充実させ、
心豊かで自主的に行動する生徒を育成する

目指す学校像

- ① 生徒、保護者、地域から信頼される学校
- ② 生徒が意欲的に活動でき、達成感を味わえる学校
- ③ 知・徳・体の調和のとれた教育を推進する学校



2 取組を進めるに至った背景と取組の方向性

広島市の学校における働き方改革推進プランの達成目標に対する実績（令和2年度）

区分	プランの達成目標	本校
全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校等時間	45時間以下	44.6時間 教頭 85.8時間 主幹教諭80.7時間
連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間超の教職員の割合	0%	13%
年次有給休暇の平均取得日数	16日以上	8.0日

広島市の「教頭」「主幹教諭等」の勤務時間外在校等時間が多くなっていることや年次有給休暇の取得が進んでいないことと同じ状況が庚午中学校にもある。

→本校の効果的な取組が広島市の学校の課題解決につながる。

2 取組を進めるに至った背景と取組の方向性

校内アンケート調査（4月）

	肯定的回答
・ 自校の働き方改革は進んでいる	・・・ 24%
・ 働き方改革に積極的に関わっている	・・・ 34%

<要因として考えられること>

令和3年度の教職員体制 約50名中、18名が異動
教職経験10年以下の教職員 46%



組織として取り組む体制を強化し、その上で具体的な取組を進める。

3 組織体制の強化

(1) 研究推進委員会の設置

- ・ 研究推進委員会 = 働き方改革推進のための委員会
- ・ 研究推進委員会は、管理職及び各分掌の主任等で構成
- ・ 研究推進委員会を時間割に位置付け確実に会議を実施

区 分	第1週	第2週	第3週	第4週
水曜3校時	企画	企画	企画	企画
水曜4校時	研究推進	学校評価	衛生	(予備)

さらに、企画委員会の構成員は、研究推進委員会の構成員に学年主任が加わったメンバーなので、企画委員会でも必要に応じて働き方改革について協議できる。



働き方改革推進体制の明確な位置付け

3 組織体制の強化

(2) 研究推進委員会の役割

① 実態の把握、情報収集

- ・ 研究推進委員は、日常の中で働き方改革に関する教職員の意見やアイデアを聞き、委員会の議題に挙げる。

② 取組内容・方法等の決定

- ・ 議題に挙げたアイデアの中から、何を、いつまでに、誰が、どのように取り組むかを具体的にまとめる。

③ 取組の実施

- ・ 研究推進委員が中心となって取組を進める。
- ・ 必要に応じて分掌を超えたプロジェクトチームを結成する。

④ 取組の振り返りと修正

- ・ 定期的に行う委員会で、課題があればすぐに対応する。

4 具体的な取組

(1) 教頭の超過業務時間の縮減に向けて

- ・ 教頭の担う業務の見直し

(2) 教職員の超過業務時間の縮減に向けて

- ・ 採点システムの導入
- ・ ICTの活用による資料の共有
- ・ 部活動指導員の横断的活用
- ・ 定時退校日の取組
- ・ 放課後の保護者等への電話連絡のルール作り

(3) 年休取得の促進に向けて

- ・ 年次有給休暇を計画的に取得するための取組

について説明します。

4 具体的な取組

① 教頭が担う業務の見直し

「教頭でなくてもできる業務を他の教職員が担うことで、教頭の負担を軽減できないか」



教頭による放課後の窓閉めや電気機器の消灯の確認のための見回りが、閉め忘れや消し忘れが多かったため、確認だけでは終わっていなかった。
→ 他の教職員で徹底することで教頭は確認のみで終われるようにした。

16:45と下校前に放送



教頭が1日の見回りに要する時間 取組前 30分 → 取組後 20分

<課題>

- ・ 教頭の業務が見えにくい上、他の教職員でも担うことができる業務なのか判断が付きにくい。
- ・ 教職員全体に業務を平準化していくための意識改革。

4 具体的な取組

② 定時退校日の取組

「定時退校日を学校全体で設定する日があれば、実施しやすいのではないか。」

毎週1回は、各自で定時退校日を設定していたが、個人の取組では、実施が難しい状況があった。

→ ・月に3回、会議日としている日を、5時間授業に日程変更。

さらに、原則、部活動休養日とし、その日を定時退校日に設定することで、実効性を向上させる。

- ・教職員に配布する月中行事予定表にも「定時退校日」であることを記入し、教職員の意識向上を図る。

<校内アンケート調査>

- | | |
|-------------------|-------|
| ・定時退校日に定時退校を実施できた | 23.4% |
| ・日々の定時退校を意識している | 69.9% |

今日は定時退校日ですね

昨日より1時間

早く帰りましょう!



4 具体的な取組

③ 年次有給休暇を計画的に取得するための取組

「年次有給休暇の計画を立て、それを教職員間で共有し調整することで、年次有給休暇を取得しやすくなるのではないか」



全ての教員が忙しい中では、授業や学級の指導などを代わってもらうことを他の教員に頼みにくく、年休が取得しにくい状況があった。

- ・ 翌月の年休予定を、半月ごとに計画表に入力
 - ・ 出張予定もあわせて、学年で一覧表としてまとめ、学年の教員で共有することで、時間割変更や学級指導の調整を実施
 - ・ 時間休を含め、月1日の年休取得を目標に設定

4 具体的な取組

③ 年次有給休暇を計画的に取得するための取組

<学年で共有する一覧表の例>

12月		2		学年																								
		1組担任 A				前半	入力済	後半	未入力	2組担任 B				前半	入力済	後半	未入力	副担任 G				前半	入力済	後半	未入力			
		SHR	1	2	3	4	昼食	5	6	SHR	SHR	1	2	3	4	昼食	5	6	SHR	SHR	1	2	3	4	昼食	5	6	SHR
1	水										休	休	休	休	休	休	休	休	休									
2	木						休	休	休	休																		
3	金																								出張	出張	出張	出張
4	土																											

<校内アンケート調査>

年次有給休暇が取得しやすくなった 54.9%

- ・ あらかじめ計画的に予定を立てる習慣がついた。
- ・ 忙しい中でも、年休をとることが必要であるという意識が高まった。
- ・ 希望する日時が重なりやすく、調整しにくい。

→ 今後は、学年ごとに柔軟に計画を立てられるようにするなどの改善が必要

5 今年度のまとめと次年度へ向けての方向性

(1) 今年度の実績

区分	プランの達成目標	本校 (令和2年度)	本校 (令和3年 12月時点)
全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校等時間	45時間以下	44.6時間 〔教頭と主幹教諭の 平均80.7時間〕	43.5時間 〔教頭2人の 平均63.0時間〕
連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間超の教職員の割合	0%	13%	16% ※5月以降では0%
年次有給休暇の平均取得日数	16日以上	8.0日	8.9日

5 今年度のまとめと次年度へ向けての方向性

(2) 校内アンケート調査結果

① 教職員の意識の変化

	4月	12月
・自校の働き方改革は進んでいる	… 24%	→ 74% +50
・働き方改革の推進に積極的に関わっている	… 34%	→ 70% +36

5 今年度のまとめと次年度へ向けての方向性

(2) 校内アンケート調査結果

② 具体的な意見

- 研究推進委員会等で全員を巻き込む取り組みを意識して行っている。
- 定時退校などの呼びかけがたくさんされるようになった。
- 教職員間でも働き方改革について、話題になるようになった。
- いろいろな取組が行われている。
- 業務量が多すぎて、定時退校が実現できていない。
- 教員一人一人の仕事量が減っていない。
- 時間に追われながら仕事をしている。

5 今年度のまとめと次年度へ向けての方向性

(3) 次年度に向けて

- ・教育効果を見失わない働き方改革の推進
→学校教育目標とめざす子ども像の共有の徹底
- ・教職員の連携、組織力を生かした取組の推進。。。→やりがいと働き方改革のバランスのとれた業務改善と意識改革
- ・保護者・地域を巻き込んだ取組の推進
→地域をはじめとする学校以外の方からの協力

庚午中の強み

ご視聴ありがとうございました
庚午中学校

